

行政視察レポート

2つの常任委員会が他の自治体を訪問し、研修してきました。
その概要について報告します。

市街地活性化事業 を視察

産業建設常任委員会



▲石川県白山市の工業団地にて

産業建設常任委員会の一行9人は7月12日から14日まで富山県富山市、石川県白山市を行政視察しました。富山市では市街地活性化事業を視察しました。同市の人口は42万人。中心市街地の空洞化が進行する中、平成25年度の北陸新幹線開業を見据えた富山駅周辺整備や、市街地の活性化を図るさまざまな施策を実施しています。車に頼ることなく安心して快適に暮らせるまちづくりを目指し、全国初となる富山ライトレール（最新型路面電車）を導入。

公共交通機関として市街地活性化に大きな役割を果たしていると感じました。石川県白山市では企業誘致の取り組みについて視察しました。同市の人口は11万人。北陸自動車道、加賀産業開発道が走り大都市圏と結ばれています。企業誘致は積極的に工業団地は15を数え、製造品出荷額は右肩上がりとなっており、勢いを感じる市でした。両市を視察し、まちづくりに対する情熱が現状を変える原動力になるということとを改めて認識しました。

ごみ対策等を テーマに視察

厚生常任委員会



▲北海道岩見沢市のごみリサイクル店にて

厚生常任委員会の一行8人は7月18日から20日までごみ対策・健康政策をテーマに、北海道岩見沢市、札幌市、小樽市を視察しました。

岩見沢市では「ごみのより良い始末を進める市民会議」という市民参加の組織がリサイクル店を運営しており、ごみ減量の啓発活動に積極的に力を注いでいました。

また、札幌市のモエレ沼公園は特に印象深い所でした。この公園はごみ処理場として利用した後埋め立

てて、27年間もかけて造られたものです。敷地全体を一つの彫刻とみなし、この公園づくりに情熱を燃やしたのが世界的に有名な彫刻家イサム・ノグチです。

今では札幌市の「もう一つの顔」となっており、緑豊かな環境を次世代へ残したいという市民の願いが伝わってくる施設でした。

ほかに小樽市の「健康政策について」を視察しましたが、それぞれがまちづくりの参考になり、横手市を客観的に見る良い機会を得ることができました。